

章	5	身近な環境に配慮した、地球にやさしいまち
大項目	02	快適環境の保全と創出
施策	02	環境保全型まちづくり

目的

環境に配慮した舗装を実施することでヒートアイランド抑制効果を高めるとともに、道路施設において、資源の有効活用を進めます。

対象・手段

区道において、遮熱透水性舗装や間伐材を用いた木製防護柵を実施し、ヒートアイランド対策や地球環境対策を進めます。

施策の方向

温度低減効果がある舗装の実施や既存資源の有効利用を図ることで、身近なところから、環境に配慮したまちづくりを進めます。

基本計画(平成10～19年度)の目標達成状況

指標名	A 基準値	B 目標値	C 達成値	D 達成状況
自然エネルギーを利用した区施設数(施設)	(平成10年度) - 現状値 (平成13年度) 26施設	(平成19年度) ↗	(平成19年度) 28施設	実績は、当初26施設から平成19年度28施設に伸びており、目標を着実に達成しています。

指標名の定義: 雨水利用システムや自然エネルギーを利用した区の施設

成果指標

指標名		定義		目標水準		
遮熱透水性舗装の施工面積		遮熱透水性舗装の面積		(毎) 年度に (1,300㎡) の水準達成		
木製防護柵の施工延長		木製防護柵の延長		(毎) 年度に (100m) の水準達成		
				() 年度に () の水準達成		
施策の達成状況						
		単 位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
施策成果指標	目標値1	㎡	1,300.00	1,300.00	1,300.00	
	実績1	㎡	1,229.00	1,370.00	1,271.00	
	目標達成率1 = /	%	94.54	105.38	97.77	
	目標値2	m	100.00	100.00	100.00	
	実績2	m	110.70	161.40	155.50	
	目標達成率2 = /	%	110.70	161.40	155.50	
	目標値3					
	実績3					
	目標達成率3 = /					

所管部	みどり土木部
-----	--------

主な取組み

平成17～19年度の3年間の実績
 遮熱透水性舗装 3,870.0㎡ (目標3,900.0㎡)
 木製防護柵 422.2m (目標300m)

課題

遮熱透水性舗装は、ヒートアイランド対策に有効なひとつの施策と考えられてきたことから、当区は、東京都土木技術センターと協力の下、温度低減効果等について実証を重ねてきました。そのような中、国や都及び他自治体でも環境配慮型舗装として取り組みが進みつつあります。区では、今後も引き続き実績を積み重ねながら効果を検証していくことが必要です。

木製防護柵は、多摩のみだけでなく、伊那市の間伐材有効利用についても検討していくほか、経年変化による劣化状況の経過観察も継続的に必要です。

評価

総合評価	
<p>総合評価を「B」とした理由は、施策を構成する各事業がほぼ計画通りに進み、所定の成果が得られたことによるものです。</p> <p>サービスの負担と担い手 環境負荷を抑制もしくは減少させるまちづくりの一環として、環境に配慮した事業を区が管理する道路に積極的に取り入れることは、区の責務であると考えます。</p> <p>適切な目標設定 目標設定は、ヒートアイランド対策及び地球環境対策として、区内で大きな面積を占める区道で着実に進めるためのものであり、適切です。</p> <p>効果的・効率的な視点 遮熱透水性舗装は、東京都土木技術センター等の技術的支援の中で、施工実績と効果検証を積み重ね、効率的に事業を進めているものと考えています。</p> <p>また、木製防護柵においても、施工実績を積みながら、適切に維持管理しています。</p> <p>目的の達成度 本事業では、地域に身近な区道における施策であることから、区民にも享受しやすく、道路環境改善策のひとつとして事業効果が高い施策であり、着実に目的が達成されているものと考えます。</p>	<p>B</p>

今後の取組み・改革の方針

研究機関とも連携して、評価・検証を進めていきます。
 この施策は、新宿区総合計画の基本施策「 ー 3 - 道路環境の整備」に引き継いで取り組んでいきます。

施策を構成する計画事業

	総合評価	頁	総合評価	頁
環境に配慮した道づくり	B	282		